

第4回 まちづくり村民会議 記録

日 時	平成 22 年 4 月 17 日	場 所	くすのきホール 2 階第 1・2 会議室
部会名	第 1 グループ	出席者	5 名

【議論内容】

- ・全体会議で第 1 グループは④村民事業おこし⑤村民連携の二題が与えられ議論を行った。
- ・先ず、持ち寄った「アイデア提案」を各自発表し、④村民事業おこしの議論につなげ、いかに村内での連携をつくっていくかの⑤村民連携の方法について深めた。

④村民事業おこしについて

■ 観光を再び活性化させる

- ・基本は『金剛山』を活かす：大阪府の宝・信仰の再発見

－拠点をつくる：今あるものを活かし・新たな拠点も導入していく

◎棚田（棚田百選）の活用

「棚田祭」として恒例化 ライトアップなどの工夫や農業祭の連携 案山子コンテスト
行事（イベント）で人が集まる・ふるまい・リピーターを拡大する
村民との交流もなければならない：体験型交流

：一過性の課題：※交通渋滞など村民とのトラブルも課題

◎風呂（金剛の湯）をつくる

金剛山の観光の拠点とする：物産館・山小屋など総合拠点
建設事業費の捻出・地権者の協力取り・民間企業誘致・村の支援
温泉の掘削・間伐チップの活用

－山林の活用

◎里山の活用 多様な資源だが、里山ほど放置している

間伐と間伐材の活用 チップ カブトムシ発生

課題は、民有で個人利用の山林、生産林が主で針葉樹林が中心

◎山に雑木の導入・クヌギやもみじを育成する

シイタケなど多様な資源となる

－交通から人の流れをつける

◎村内の施設の回遊をつくる

資源価値をあげ、入込み客を増やし、連携して→収入の拡大を図る

PR に工夫、新聞の活用、バスの活用

－このことから、まず「人とグループ」を集める

■ 村民が動く

- ・村民が一体となって活動し「村民パワー」を全開にする
- ・このため豊富な資源人材を集め一緒になって動く活動をつくる

－「手づくり村」づくり を始める

◎豊富な資源を活用し新たな資源を生み出す、あるものを活かす村民の運動

手づくりをとおして集まりアーティストを呼び込み、千早赤阪「手づくり村」を創設

◎空き施設・用地・農地の活用

村民があらゆる施設を活用し連携して活力をつくっていく 「場」をつくる

廃校の利用

民家：空民家バンク制度：村が関わり連携（信用供与）

小吹台：「学生」の下宿として貸す→「大学」との連携につなげる

空農地の活用：体験型農業講座として：貸すのに村の協力必要

学校・大学の連携をつくり出す

◎村民パワーを活かす・村人も交流人も

中高年パワーを呼掛け・集め・活かし合う：※旧村のシガラミ注意※とっかかりが重要

小吹台パワーもある

－元村民の中高齢者層の「帰ってこい運動」を起こす

若者・大学生パワーを導入し活かす：タイアップ→大学連携につながる

－このことから「交流」をつくる

■ 本もののメニュー開発と提供に取り組む

・ 先ず、地味から始める

・ そして良質な人を呼び

・ メニューを工夫して、魅力を高め、増やし、地域の関連を多様につくっていく

－「ちはやあかさか村あそ歩」を提案し 交流を始める

◎ウオークラリー、ツアーの企画：大阪あそ歩を参考に、

千早赤阪村の歴史・自然・物産と四季の良さを紹介

千早古道の活用 ・マップづくり：保存会の協力

食の楽しみを充実

トレッキングのノウハウを伝える

◎やわらかなイベントの工夫と連鎖

一期に大量に人が押し寄せる形から連鎖して、常時の楽しみの拠点に

山歩き（トレッキング）のメッカを目指す

◎情報の発信

あらゆる手段で情報をつくり発信する：村のホームページから変える

－このことから「情報」の入手・整理・発信に

■ 既存施設の活用再生に取り組む

－「道の駅」と「直売所」の連携から始める

◎「道の駅」の充実と「農産物直売所」の連携をつくる

◎「自然休養村管理センター」も連携する

雇用・村の収入源として大切

あるものから活かす、つなげる、広げる

このために、既存の活動や施設や資源を活かし始める

観光ワーキンググループの協力をつくる

郷土料理を集め、新たな料理もつくる

村の弁当をつくる

農協加工部の協力も得て

村の特産を集める

チマキ・キビダンゴ・つけもの・みそ

草餅・ずんが餅（くるみ餅）・枝豆・柿葉寿司・凍り豆腐

カブト虫も取れる

◎既存の祭りを活かす

農業祭(2年ごと)・農業フェスティバル(毎年)を活かす

村祭りの活用

楠木正成のイベント活用

ーこのことから「既存の祭や施設」をまきこむ

⑤村民連携について

・私たち村民が始める：村民・グループが先行して動く

■ 村民ネットワークを設立する

・村民事業興しから

ーこのことから、まず「人とグループ」を集める

ーこのことから「交流」をつくる

ーこのことから「情報」の入手・整理・発信に

ーこのことから「既存の祭や施設」をまきこむ

をとおして、人の流れをつくり、つなぎ、千早赤阪村の村おこしに取り組む

◎このため村民組織「手づくり村民ネットワーク」を設立する

目的は、村民から動き、「農」「林」「水産」「工芸」の創造的息吹を創り出す

そこから、観光協会などの協力を創っていく

役場が支援しはじめる

高齢化に直面する千早赤阪村の村民交流による

若者へバトンタッチ

人材の育成

新しい産業の創造に立ち向かう

千早赤阪村の人とグループ、それに連携する人とグループなどの多様な頑張りを連携

ネットワーク型の連携の基盤として「学習機会の共有」「情報の共有」のシステムを持つ

情報化時代に対応した、スキルを駆使する

第4回 まちづくり村民会議 記録

日 時	平成 22 年 4 月 17 日	場 所	くすのきホール 2 階第 1・2 会議室
部 会 名	第 2 グループ	出席者	5 名

■ 議論内容

①村のイメージづくり

- 「大阪のふるさと」
- 「いつまでも住みつづけられる生涯村 千早赤阪」
 - ・対象者は子育て、現役、高齢者
- 「安心して働くことができる生活村」
- 「教育文化村」
 - ・村の収入源確保、農業小規模集団（10軒以内）と個人、生活農園づくり
- イメージを実現するために必要な対応
 - ・谷をまたぎ、村を横に動くことができる交通の確保
 - ・地域運営による地域別の店、施設の誘致
 - ・村営保育園の地域別設置

④村民事業おこし

村づくりのための事業会社づくり

- ・村行政ができない組織で、議会を通さな
- いで即効性を持ち、実行する組織
- ・立ち上げが可能な小規模集団の組織
- ・有志で起こし、村が支援する
- ・NPOでも可
- ・事業としては、景観、産業に関する新たな条例をつくる 等
- ・事例：丸亀商店街（高松市）

情報

- 「市民大学」（カルチャーセンター）の開講
- ・千早小学校跡地の活用した情報発信基地
- ・行政から村民へ主体の移管によることにより話題づくりを
- ・若者に運営をまかせ、JAへの賃貸も可能
- ・多様なアイデアの箱づくりのイメージ

農地の確保 空家施設

- 眼下に消費者（大阪府民）が目に見える村の立地条件を生かす
- 余った土地を村が買いとってストックし、集約化し、若者につかってもらう
- 定年退職者の帰農、新しい就農者の組織づくり
- 仕事のない若者を対象とし、定年退職者も呼び戻す
- 全国から募集、特区的な位置づけで、村が紹介して発展させる
- JAの活躍の場として位置づける
- 農機具等はシェアリング方式で

地産・地消 環境保持の構想

- バイオマスビレッジ
- ・地産地消、省エネ村
- ・5～10年後までみこしておく

村の役割

- 村づくり課（班）を常設する
- 住民支援相談センターを設置する
- 村づくりの費用は必要

第4回 まちづくり村民会議 記録

日 時	平成 22 年 4 月 17 日	場 所	くすのきホール 2 階第 1・2 会議室
部 会 名	第 3 グループ	出席者	5 名

■ 議論内容 ● 悪いところ ○ 良いところ ☆ 提案

人を育てる人の「心」をたがやす

【現状】

- 思考が停止している
- ブレーキをかける
- 大阪府民の施設 村にはない
- ☆ インフラ整備
 - ↳ 交通網
- ケイタイ電話
 - ↳ 頼りすぎ
 - ↳ 情報にふりまわされる
- 自由をはきちがえている
- PR の仕方がヘタ
- 給食がおいしい



【目的】

- 教育充実で村を変える
- ☆ 教育の充実
 - ↳ あ村に住みたい
- ☆ 子育てしやすい村のイメージを PR する
- ☆ 小中一貫共同目標
- ☆ 家庭教育の充実
- ☆ 若い人が入ってきやすい環境
- ☆ 良い子たちがこの村ですっと住みつづけて欲しい

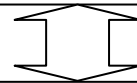


【どうしたらいいか】

- ☆ 自然環境を生かした教育
- ☆ 校区ごとに持ちまわりで活動
- ☆ PR の仕方によってもっと人は集まる
- ☆ 読み書きそろばんどれだけ子供に身につけさせるか
- ☆ 村独特の教育の中味を打ち出す
- ☆ 教育方針
 - ↳ 村の方針を変えていく
 - ↳ 村の良いところを生かした教育
- ☆ 小中一貫で英語を小学校から教える
- ☆ もちまき
 - ↳ 魅力ある行事で人は集まる

住民は何をすべき

- ☆ あいさつ
- ☆ 朝ごはん
- ☆ 読書のススメ
- ☆ 紙芝居や読み聞かせ
 - ↳ 読書に親しむためのきっかけづくり
- ☆ 自分の感覚を磨く
- ☆ 村民ボランティアの活用
- ☆ 親の教育
- ☆ 責任



行政は何をするべき

- ☆ あいさつ
- 笑顔がない
- ☆ 親切心すぎない（面倒を見過ぎない）
- ☆ 住民の活動を見守る

歴史・教育と健康

- ☆ PR には橋本知事に来てもらう
- 上赤坂城跡からの道路
- ☆ 自転車で探訪ルートを設定
- ☆ 放置自転車を活用
- ☆ 3 km 5 km 10 km コースの設定
- ☆ 歴史探訪と健康づくり
- ☆ 健康ちはやあかさか 21 をタタキ台にする
- ☆ 健康で医者いらずの村にする
- ☆ 目と心と体をきたえる
- ☆ 猫背
 - ↳ 金剛山へ登って体を鍛えよう

第4回 まちづくり村民会議 記録

日 時	平成 22 年 4 月 1 7 日	場 所	くすのきホール 2 階第 1・2 会議室
部 会 名	第 3 グループ	出席者	5 名

■ 議論内容 ● 悪いところ ○ 良いところ ☆ 提案

自然エネルギー公園

☆千早川の豊富な水や森林資源を活かし自然エネルギー研修公園をつくる
☆大阪府民や子どもたちが地球温暖化やエネルギーについて学べる場

内容

☆登山口にある堰堤に風力発電機
☆薪炭ガス発電機
☆水力発電機 多聞地区の集落を流れる千早川流域に設置
☆住民の電力を賄うモデル地区

住民は何をすべき

☆集まった人の憩いの場
☆特産品の販売

行政は何をすべき

☆販売や研修会の場の確保
☆観光課の設置⇒史跡めぐりツアーなどの企画

住民と行政が協働すべきこと

☆ガイドボランティアの指導内容やガイド内容について共に研究していく。

効果

大阪府民の憩いの場

自然の宝庫 歴史の宝庫である千早赤阪村の資源を活用し、学べる大阪府民の憩いの場として集客が期待できる

☆まず人が集うことを考える

⇒集まった人々がどうすれば村に利益をもたらしてくれるか

⇒人が集うために資源の開発



堰堤



発電所跡



水仙



菜の花